

健康福祉学専攻・博士後期課程

教育理念・目標

健康福祉学専攻博士後期課程では、人々の健康と福祉の増進を目指す社会福祉学とスポーツ科学を基盤に、わが国社会の喫緊の課題である地域再生・創生のために必要とされる高度の専門的知識や社会的技術を開発し、複合的・重層的・多層的な視角から、それらを実践に適用する能力をもつ健康福祉学の研究者を養成することを教育の理念・目標として定める。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

健康福祉学専攻博士後期課程は、本専攻の教育理念・目標に掲げる、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（社会福祉学）または博士（学術）の学位を授与する。

身に付けるべき能力

1. 健康福祉学の高度な専門的知識・技能を駆使して、現代のグローバル化、超少子高齢化、人口減少、社会関係資本の縮減などによってもたらされる地域社会の諸課題の解決・緩和・抑止・予防に向けた研究および実践を志向する能力。
2. 地域社会における深刻な諸課題の解決のために、健康福祉学をはじめ学際的で幅広い知識と技術の修得を生涯にわたって追究し続ける能力。
3. 健康福祉学に関する研究成果を学会発表や論文投稿により公表でき、学術的な貢献とともに地域社会への貢献を行う能力。

【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

教育課程編成の方針

本専攻教育課程では、社会福祉学とスポーツ科学を基盤としつつ、人々の健康と福祉の増進を図る支援や地域再生、創生に関連する学術領域から構成し、自立かつ実践的な研究者の育成のできる体系化を図っている。特に、(1)複合的・重層的な接近法（視角）、(2)実践的接近法という2つの観点を修得するために、科目群を編成している。

教育課程運営の方針

本専攻では、3つの領域(1)原理分野4科目、(2)展開分野5科目、(3)特別演習3科目として配置された合計12科目のなかから、必修科目3科目を含む20単位を最低限履修することを要件としている。履修においては、科目系統図等を示して、学生が自らの研究課題意識や進路を考慮して必要と判断する科目をさらに選択し履修することができるようにカリキュラムを編成している。

【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻は、専門分野の学理を探究したいと希望する者とともに、多角的な視点から実践研究を行うことを希望する者にも門戸を開いている。本専攻は入学者選抜にあたって、以下の要件を満たすものを積極的に受け入れる。

1. 人々が営む生活や、その人々が生活する地域や社会に強い関心を持ち、社会福祉や地域社会支援、健康支援などに関する学問的基礎知識のある者。
2. 社会福祉、スポーツ科学についての、高度な専門的知識と理論・技能を修得して、研究活動や実践活動を通して地域社会に貢献したいと考えている者。